

中道北小学校移転 下曽根東自治会説明会 会議録

日	時	平成28年8月24日（水） 午後7時30分～9時10分		
場	所	下曽根東区公民館	当日参加者数	19人
教育委員会	長谷川教育長・数野教育部長・嶋田教育総室長・深澤総務課長・村田総務課課長補佐・土橋総務課係長・鷹野総務課係長			

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 住民説明会の経過の説明
- 4 候補地とその理由の説明

- 5 意見交換

住民 説明会には第1回から第4回まで参加した。最初から中央道南ということで提案している。北側と南側の比較を見たが、最初から教育委員会は北側にもっていこうとしている。この比較表についても、例えば児童館からの距離であるが、学校の中に児童館を作ればいいのではないかと、駐在所の距離についても移転すればよい。

それから騒音の測定値についても、同じ時間で計測しないと比較にはならないと思う。南側はおそらく上り坂になっているので騒音が大きく感じるのであるが、同じ時間に測らないと比較にならない。大きい数字を南側に一生懸命出しているように見える。

子どものためといっているが、3方を囲まれていて、リニアの騒音はあまり影響がないといっているが、おそらくその周辺でブレーキをかけると思うので、ブレーキをかければもっと騒音は大きくなるのではないかと。今は通過時の話で、ブレーキをかけたらどうなるのか。例えば、騒音や磁気は問題ないとの話であり、学校の中で勉強している際には問題ないが、子ども達は、休み時間には外で遊び、体育の時間は外に出るので騒音も影響する。この囲まれた場所は納得できない。

教委 児童館については、離れすぎてしまった場合、児童館としての役割がなくなってしまう可能性がある。児童館の役割については、放課後に児童を預かるということが重要であると思っている。児童館を移転するという話もあるが、放課後児童クラブや放課後子供教室という放課後に預かる制度もあるので、そういったものを校舎の近くにもってくるなども含めて、児童館としての役割を果たせるのかどうか検討した中で、どのように実施していくのか、決まった場所で考えていきたいと思っている。

騒音についても音がある程度出るといことは想定しているので、フードなどJR等に要望していくつもりであり、建物の技術的な部分も含めて対応していきたいと思っている。

教委 ブレーキの件について、教育委員会で勉強した中で話すと、いわゆる車のブレーキとは構造が違うようである。超電導磁石の周波数によってスピードが変わってくるということで、リニアモーターカーの騒音の一番の原因というのは、風切り音であるとJRも説明している。

スピードが上がれば上がるほど大きい音になってくるので、スピードが下がれば下がるほど音も小さくなっていくということになる。遅いスピードで学校周辺を通るのであれば、音についてはかなり抑えられるのではないかと思う。1時間に何本か通る中で、山梨に止まるのは1時間に1、2本といわれているので、たいていのものは500kmでの通過となり、風切り音が出るので、むしろ速度を下げてもらったほうが音は下がって切るのではないかと思われる。

住民 駅の手前3km位から車輪走行になるので、音の出方が違うのではないか。音はどこで測っても動くものであるので、実際にリニアが完成したときの音とは全然違うと思う。例えば、中央道の音がリニアの高架に当たり聞こえてくる、あるいはリニアの音も風向きによっても聞こえ方が違うので、今の数字は変わる話であり、音についても磁界についても丁度よい説明をするためのものではないか。実際に、完成して見なければわからないというのが実情ではないか。

教委 心配の面はあるかもしれないが、教育委員会もできるだけ実測されている数字を基に考えるように努力をしている。

住民 心配があるようなところにわざわざ建設することもないのではないか。

住民 実測値もJRが測った値であるので、国や公の第三者機関で測ったデータはあるのか。

教委 国も認めている環境影響評価書というものがある。

住民 何メートル下の測定値というのはJRが測ったものなのか。

教委 測ったのはJRであるが、公開測定で多くの人が見ている前で測定もしている。

住民 公共の独立機関で測らなければ駄目であると思う。

住民 中央道は四六時中車が走り騒音が出ている、それにリニアが走ればどのような騒音になるのかわからない。

住民 どこが測ったかわからないようなデータではしょうがないということを言っている。ましてこれからどうなるかわからないので、なるべく遠くにしてほしい。

住民 実際問題どうなるかはわからないと言っている。データからするとこうなるという説明である。実際に完成したとき悪い数字が出ると良くない。別に南側でなく他の場所でも良いが、候補地案だけは良くない。別に下曽根よりだからというわけではなく、笛南中の近くでもよく、白井の人達が遠いということであれば、バスを出せばよい。

教委 移転先として決まった場所で、通学距離が4kmを越えるということであれば、当然、スクールバスについても検討しなければならないということになる。まだ、場所がきまっていない

ので、決まったところでどのような対応になるのかという話になると思う。

住民 下曾根の地域でも白井の地域でも4 kmはないのでバスは出せないということか。

教委 場所によっては、4 km越える場所もある。

住民 説明してもらったデータの比較は良くわかるが、直感で言うと、土手を通るたびに有力な候補地はここだという話を聞いた中で、3方を囲まれたところになぜ学校を建てなければならないのかと感じた。自分の近くというわけではなく、リニアから離れるというのも1つであるが、ロケーションとしては、南の方が開放的で魅力があるのではないかと思う。

将来、様々な建築物が建てられる可能性のある地域であることはわかるが、現状としてみる中では、直感として、土手から見たときに、右を見たら中央道、左を見たらリニアとなり、谷間のようなところであるので理解ができない。データを並べることも大事であるが、閉鎖的な環境というのが第一印象である。それならば中央道の南側の方が学校の環境としては良いと感じる。データにより理詰めしていくことも1つであるが。直感としてのイメージでは、南側のほうが開放的で良いと感じた。

リニアから離れることに越したことはないので、磁界のデータがどうこういうよりも、素人考えで、できるだけ離れたほうが安全なことは確かであると思っている。

住民 走行すれば間違いなく電磁波の問題が出てくる。一般家庭の近くを通ることになるが、今は、問題がないといっているが、あれだけ重いものを持ち上げる。それが電磁波となってコンクリートを突き抜けてくる。JRが北小の校舎には軌道がかからないのに移転してほしいというのは、その辺の懸念があるからではないかと思う。中国でもリニアの計画をしたが電磁波と騒音の問題で中止になっているはずである。そのような懸念もあるので、リニアの軌道から離れたほうがよい。

教委 電磁波についてであるが、JRは22mの軌道分しか買収せず、その両側に民家があってもその用地は買収しない。仮に両側100mにわたり危険であるとのことであれば、それを所管する国、行政が見逃すことはないと思っている。JRでもデータを基にどこまで買収するのか決めているはずであるので、教育委員会としては、まずはそれを信じなければならないと思っている。

将来なにか起こるかも知れないということであるが、例えば、携帯電話の電磁波について、スーツの胸のポケットに入れてみると、心臓の真上であるので危険であると言われていたが、結局、国でも現状において規制をしていないということは、その影響が現れていないということであると思う。

様々な事があるが、アトピー性皮膚炎について調べてみると、スナック菓子などお菓子類がよくないと書いてあるものや、きれやすい子どもについても食べ物の影響であるといわれながら、国でスナック菓子を規制したかといえばしていない。つまり、根拠として因果関係が出てきていないということであると思う。なので、教育委員会として、リニアについては、示された基準をきちんとクリアしていくということ考えていきたいと思う。

先程の発言の中で、この表が北側にもっていくための表になっているとのことであるが、この表を作成した経過であるが、自治会長の説明会を6月に行なったが、その際に、地元への説明が足りないということで、説明会をしてほしいということと、教育委員会では、地図一枚とイメージ図の映像で説明をしていたが、それでは全然わからないという意見が出された。

また、中央道の北側と南側を比較した表を出してくれという意見もあり、これまで問題になっていたのが、通学距離、騒音、電磁波、景観などが出ているので、このような資料を作成した。有利なものを並べたというわけではないのでご理解いただきたい。

住民 東京から中道に移住し、北小学校に通っている人がいるが、その人は、これだけの景観の良いところはない。ここに来てよかったといていた。私達はビルの間の小学校で育ってきたが、非常に良い環境で勉強させてもらっているといっており、本心であると思った。

中央道とリニアの間へ建設するという案が出てきたこと事態、違和感がある。中央道とリニアの間となると、南アルプスが見えない。見えるのは中央道の土手だけという感じになる。教育というと、情操教育も含まれていると思うので、教育委員会もわざわざ候補地案を選んだわけではないと思うが、いろいろな意見が出る中で、あえてそこにもっていくというのがどうかと思う。

教委 教育委員会が、教育環境が悪くなる場所へもっていきはざがないと信頼していただきたい。第1回目の説明会では、学校をつくるスペースがあるのは、A、B、Cの3ヶ所あると示したが、教育委員会の案をちゃんと示してくれと意見が出た。

教育委員会でも当然、その前から、いろいろな場所をメリット、デメリットを調べてきた。1回目の説明会で意見が出たのが、通学距離についてこれ以上遠くなるとは困るということであり、そこからはじまった。おそらく中央道の北側の方が言ったと思うが、学校は避難所であるので中央道より南にいつてしまうと、中央道の土手が崩れてしまったら、避難所として使えない。南の人達は笛南中があるということで、避難所についても意見が出た。児童館や駐在所など安全な居場所づくりなどもあった。反面、騒音などの問題も出された。騒音について、測った場所が違うということであるが、極端に通勤時間帯と車があまり通らない深夜という測り方ではなく、測定器が1台ということで1時間30分位の範囲で移動しながら、一般的な時間帯の中で計らせていただいた。有利なデータを導きだそうということではない。

皆さんが一番気にしている景観の問題であるが、教育委員会でもこの辺りを歩いた。まずハザードマップ上では、北小学校の学区一帯が、浸水想定では2mから5mとなっている。千年に1度の浸水想定として8mと仮定すると、中央道の土手を越えてしまう。まずは、安全について考えなければならないので、候補地をどこにするにしても、土地が道路より低い感じであるのでかさ上げしなければならない。その中で、3階建ての校舎をつくれれば、かなりの洪水になっても、2階、3階に避難すれば大丈夫であるのではないかなどを想定した。景観であるが、現在の北小学校へ行き、1階から見たとき、国道の土手の背後にある樹木が茂っており、山並みを遮っていた。南を見ると中央道であるが、離れているので中央道が11mであっても、その背後には山が見える。2階の教室のベランダへ出るとちょうど国道と同じくらいの高さになるので、一般の教室からは回りが見える。3階からだともっと見えるというイメージであった。候補地案の土地を洪水などに備えてかさ上げをして、3階建ての校舎を建てることによって、

一部の方から蟻地獄といわれたが、そこまではいかないのではないかと考えている。中央道南側について学校を建てる場合は、中央道を背にし、かさ上げして校舎を建てると、おそらく中央道の路面と同じ位の高さになると考えられるので直接音が入る可能性がある。学校校舎は、北側に壁があり、窓があり、廊下があり、ここで一度、窓により音が遮られる。そして、廊下と教室の間には、上と下に小さい窓がついた大きいボードがあり、その内側に教室があるので、2重に音を遮ることができるので、音の面では良いと思うが、中央道に近すぎることで、中央道と同じ位の高さになることで、それはいくらなんでも影響があるのではないかと考えている。

中央道南側でも南の方に建てれば音が遮られるので良いのではないかとと思うが、一般的に学校は、北側に校舎があり、職員室からグラウンド全体が見えるようになっている。それは、安全管理の面で見えるようになっている。仮に南の方に建てると、南側の日当たりの良いところが廊下でその北側に教室を配置するということは考えにくいので、結局、職員室からグラウンドが見えなくなってしまうという危険性を感じている。この場所でも、北側は11mの中央道、国道も一定の高さの土手があり、インターチェンジの方もかなりの高さがあるので、囲まれる感じになるのではないかと考えている。このようなことも総合的に考える中で、中央道北側はいろいろな面でクリアできると考えたところである。

住民 災害時の避難の関係だが、中央道が崩れた場合、北の方の人達が避難できなくなるということであるが、この前の震災でもそうであるが、高速道路も落ちたので、リニアについてもそうなる可能性があるのではないかと。資料は、南側の悪いことしか書いていない。中央道北側でかさ上げをすれば、磁場も近くなるし、騒音ももっと大きくなるのではないかと。そういうことを言わずに南は駄目だといっているのだから、北側に誘導しているようにしか聞こえない。

教委 教育委員会として、自治会ごとの説明会を実施している大きな理由は、総合的に考えて候補地案であるこの場所を選んだ経過がある。しかし、それに対して、学区の人達がこぞって反対、大方の人が反対ということであれば、これは白紙撤回するべきであるということも思っている。なるべく多くの方の意見を聞いて最終的な判断をさせていただきたいと思っている。

教育委員会が白紙撤回したからといって、農政サイドでは、他に適当な場所がなければ協議にのるということであり、許可を出しているわけではない。住民の皆さんが、候補地案について、騒音や景観など様々面で学校を建てるのにはふさわしくないとして反対しているということであれば、それを根拠に、農政サイドと協議するという考えである。なので、忌憚のない意見を聞かせてほしい。

住民 リニア中央新幹線対策協議会があり、これは中道町全ての自治会長が入り、県議、市議、連合会長も入っている組織があるのに、教育委員会はこの組織を使わなかったのか。話を聞いていると、どこかの不動産屋の話のように聞こえる。白紙撤回する覚悟もあるということも聞いていたので、この組織を利用する中で、住民の意見と協議会の意見を聞く中で決めてもらえばよいと思う。

教委 リニアが通るにあたっての全体的なこの地区の協議会であると聞いている。

住民 この移転は、子供が平等に教育を受けられるようにしなければならないのが教育委員会であると思うが、違う気がする。極端にいうと、中道は人口が減っている。小学校も中学校も減っている。隣の山城小、城南中はどうか。教育委員会にも相談にいったが、子どもは城南中に行っている。

笛南中では野球ができないので城南中に行った。教育委員会は駄目だといったが、理由をつけて城南中に行った。人口が増えているところがある。笛南中があるのでそこに小学校を建てれば、大津、小曲、落合の子ども達を送迎すればいくらでも小学校の人口を増やすことができるのではないか。子供たちがやりたくても人がいないからできないということがあると思う。大きい土地をつくってもらって、大きな学校で囲えるようにしてもらえれば、子ども達にとってやりやすい環境になるのではないか。南側であれば大きな土地もあり、環境も良いのではないかと思うが、教育委員会は考えているのか。

教委 教育委員会では、学校規模適正化係を置き5年先くらいまでの推計を見通し、各学校地区の児童の増減の推計を行っている。

文部科学省では指針を示しており、全ての学年で単級となったら、統廃合についても検討するように示している。しかし、全国で簡単に進まないのが、学校は地域の要であり、地域の中心にあるので、統廃合をするとすると7、8年かかってしまうという話もある。この地区の学校をつぶしては困るということを盛んに言われる。児童数が減っているが何とか存続させてくれ、そうしないと地区が駄目になってしまうという話もある。

教育委員会として、子供たちが平等に教育を受けられるように調査研究は常にしている。市民の皆さんの声を聞く機会をもちながらやっているが、全国的に、特に小学校については、潰してほしくない声が多い中で、もがいている状況である。

中道地域については、リニアによるまちづくりによって、人口予想が見えない部分がある。甲府市の他の地域については、人口減少時代で減っていく。現在、増加している小学校も数年後には現状に転じる傾向がある。この地区について前知事は、リニア駅周辺はまちをつくらないといっていたが、後藤知事は、半径2 km、3 kmなどと表現しているがまちをつくらないといっている。そのエリアにこの地域も含まれるので、今後、発展するのであろう地域ということで、人口の増加や工業や商業の働く場所など雇用も生まれる可能性があり、地元にとどまることも考えられる。一番人口予測がしにくいところがこの一帯である。それで、今回については、統廃合は考えず学区の中での移転とした。

住民 そうでしたら、極端な話この予定地しかないのかとも思う。子ども達は、野球やサッカーをしているときに壁に囲まれているのか。囲まれた中で、野球やサッカーをさせるのか。

教委 候補地案は囲まれる。中央道南側でも、校舎を南側に建てることを前提にすると、周りが囲まれてしまう状況がある。そういう意味では、グラウンドに立つと同じ状況になると思われる。

住民 南側はすごく広いではないか。

教委 中央道南側の円を示したもっと南側ということであると思うが、そうなると農地の真ん中を分断してしまう。そうなると農振の除外はできないというかたちになってしまう。円で示したところは、南側でも端になっているが、他に候補地がなければ、ここは協議することができるということであるが、もっと南側になると、学校の周りが農地となり、集団的な農地を分断してしまうことになるので除外ができないということになる。

教委 この候補地案を選定するにあたっては、市役所の庁内の様々な部署と協議を行っている。産業、農政の担当、リニアの担当とも協議をする中で、中央道南側については、甲府南インターチェンジや新山梨環状道路などの主要幹線道路付近の結節点ということで、今後、様々なかたちで開発が行われる可能性がきわめて高い場所であると考えられている。

そうした中で、行政の立場としては、教育環境の整備は当然一番に考えなければならないが、将来の子どもの働き場所の確保や優良農地の確保など地域を守っていかなければならないことなど、行政がやらなければならない重要なものであるとの意見があったので、それらも踏まえて、総合的判断し、候補地案を示した経過がある。

住民 半径2 kmなど今後の開発に影響があるとのことであるが、最初からわかっているのであれば、白紙にしてやり直すしかないのではないか。

教委 まちづくりの話は、教育委員会ではあまり触れなかった部分であるが、住民説明会で、将来の中道地域のまちづくりを考える中で、学校も考えたほうが良よいという意見があり、教育委員会としても開発の可能性について議論した。

教委 南側が絶対に駄目だという話ではない。

住民 学校があると開発に影響することが想定されるから駄目だといっているように聞こえる。

教委 想定されるから駄目だということではない。あくまでも他に候補地がなければ中央道南側についても、学校として協議をしていく。

住民 逆にもっと南側にしたら良いのではないか。リニアは国を挙げてやるものなので、農振はなんとかかなるのではないか。

教委 住民説明会でも各自治会の説明会でもリニアは国家プロジェクトであるから、なぜ農振を外せないのかと皆さん言うが、法律には上下関係があって、一番上は憲法であり、その下に法律の組み立てがあるが、リニアは高い位置にあり、学校だから大丈夫という規定がないので苦慮しているところである。リニアをつくるのであれば、それに伴って行うものであるので、それなりの法整備がされていても良いのではないかと思うが、そうではない中で決めていかなければならない。

住民 学校の移転の考え方が、気に入らないところがあるが、これだけは守ってもらいたいことが

ある。児童の良好な教育環境。候補地案はコの時に囲まれており、校門は当然、安全の面も考えて鉄製のものになると思うが、その環境を考えたら、牢屋のようなところであるので他の場所を考えてほしい。

騒音や磁界については、技術でできる問題であるので、このデータを示してもよいので、どのようにクリアするのか示したほうが良い。

住民 学校というのは地域の核であり、子どもを育てるところであり、命を育てるところであるので大切に考えてほしい。税金を使い建てる学校であり、20年、30年使っていくものであるが、目に見えて子ども達が減っていく中で、まちづくりについて、甲府市として積極的な施策をもっているのか。その施策があり、人口も増え北小も存続させていくことができるということであれば良いが、地域の文化は、南小も北小も一緒であり中道地域で育ててきた文化である。それに加えて、子ども達の文化を育てていくのは、心豊かに大勢の人数の中で、いろいろな意見を聞けることや発言できる中で育たないと、子ども達を育てられなくなってしまう。笛南中ができるときには、親はどうなるのかとても不安があった。

教育委員会が地域の10年度、20年後をどのように育てていくのか方針が見えてこない。リニアの話が出てきたので、どこにしようかということで、ここしかないということではなく、甲府市の学校が先手を切ってやりましたということがあっても良いのではないかと思った。かなり南の方にし、子どもの安全面も考えてスクールバスにするなど。甲府市でも善誘館など統合しているところもある。確かに何年もかかると思うが、見通しをつけて行う方法も考えてほしい。今日来ている方は、本当に中道地域が好きで、将来につなげていきたいと思っている人達であるので、是非、文化をつなげていくということを考えて、極端に南でも北でも、子供たちが楽しく有意義に勉強できる環境であれば、どんなことでも協力していくのもう一度考えてほしい。

教委 今の意見を十分尊重させてもらうが、まちづくりという部分については、想定の中での話であり、明確な計画は決まっていない。甲府市だけでなく山梨県も関係するものであるので、そこについては、想定の話しかできないのでご理解いただきたい。

住民 建物の年数は大体30年位であると思うので、北小も更新の計画に入っていると思うが、リニアが通るから移転ということではなく、北小は建て替えをしなければならないのではないかな。

教委 市内の小学校について、地震で倒壊することがないように、全国に先駆けて耐震化を行っている。それが終了したところであるので、建て替えというより、リニューアルを行っている。

住民 先程、中央道南側でも、校舎の配置によっては囲まれる可能性があるということだが、候補地案についてはすでに、囲まれている状態であり、東側に門を作れば、牢屋のようなところになるというのは、その通りであると思う。この移転の原点は、リニアが通ることであるが、基本的に電磁波のデータがこうだから大丈夫というよりか、それ以前に離れているほうが安全は間違いないと思うので、この候補地案は不適當であると思う。

電磁波などデータを見ればわかるが、離れていれば必然的に安全であるということと、現況のロケーションが建物の2階、3階に行けば周りの山は見えるということではなくて、南側でも校舎が壁になるから同じように見えるということについては、性質がまったく違うものであり、校舎については、配置を考えればよい話であると思う。

教委 南側の校舎の配置については、想定される話であり、場所が決定したら調査にはいるので、適切な配置を考えていくことになる。

住民 現状の候補地案はすでに囲まれているので、是非、南側で進めてもらいたいと思う。

住民 結局、何回話をしても下曾根4地区はここが最後であるが、教育委員会が説明をしてきて多分、候補地案がよいという人はいないと思う。できるだけ自分の方にしたいということではなくて、今意見が出たようなことを言っていると思う。市の中の打合せでは、南側は将来的な動きがあるから、候補地案のほうにして、この中であれば将来も大丈夫であるからここが良いという意見であると思う。他のデータを見ると、児童館や駐在所が距離ということよりも、多分その意見であると思う。

教委 これまで回った地区で、環境を大事にするという意見や、通学距離を重視する地区もあった。なので、候補地案で良いという地区があった。

住民 その距離というのは、白井の人達が言うくらいのものではないか。よっぽどのところであれば、スクールバスを出せばよいと思うが、それは出さないとやっている。

教委 今のとことスクールバスを出す距離ではないと考えている。

住民 候補地案であれば、中間であるので東も西も納得するという考えとしか考えられない。

住民 白井と上曾根地区は別の場所を出して教育委員会にお願いするということがあったと思うが、フェアに言うのであれば、そこに係わった人達は、面子上なるべく近くのほうがよいということで、景観や磁界など関係なく近いほうが良いという話をしているのではないかと思う。

教委 その真意はわかりかねる。いずれ各地区にいろいろな意見があるということは分かった。

教委 地区こぞってという場合もあるが、ある意味意外であったのが、最初に下曾根西で説明会をしたが、南側の方が良いという意見が出され、最後に司会から、本日、お集まりの皆さんの意見は、中央道の南側ということで集約させてもらってよいかと聞いたところ、3人くらいの人からいろいろな考え方があから集約できないとのことであり、結局、下曾根西自治会の結論は、集まった方の意見としては集約できないとなった。ただし、下曾根西の中でも、南側にしてほしいという意見が大多数であると思ったからその確認をしたが、集約してもらっては困るというかたちになった。

住民 2、3人位のために集約できないという結論なのか。

教委 教育委員会で、こうですと言いつつ切るところではないので、あくまで皆さん方が集約するということであれば集約してもらおうが、できないということだったのでその結果となった。

教委 下曽根東の皆さんは、全員、南側ということによろしいか。

住民 白紙撤回ということもあるからそれも含めて、結論的には教育委員会の候補地案では駄目だという事である。

教委 教育委員会の示しているところは駄目であると、もし南側以外にも良いところがあれば、スクールバス等利用するというのであれば良いということによろしいか。集約してよいか。

住民 良い。候補地案では駄目という事であり、ずっと南に来て笛南中学の隣にきてても良いということ。

教委 逆にずっと北の白井の方についても、バスを出すのであればよいという理解によろしいか。

住民 そうである。

住民 教育委員会が説明に来てくれたが、候補地案については、これまでの説明会の中はじめてだと思いが牢屋という話もでた。候補地案は良くないということで、その他の場所をお願いしたい。教育委員会も生の声であるので、間違わないように方向性を検討してほしい。

6 閉会